

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立松岩小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

住所 〒988-0122
宮城県気仙沼市松崎五駄鱈5番地

E-mail : matu-s7@royal.ocn.ne.jp

Website : www1.ocn.ne.jp/~matsuiwa/

児童生徒数：男子 174 名 女子 171 名 合計 345 名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（福祉 ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について

テーマ	「共に生きていく社会」について考える学習				
1 本校のESDでめざすもの (1) ESDのねらい 自分と地域の人や自然環境，歴史や産業との関わりやつながりが分かり，「共に生きていく社会」について考え，かつ，よりよい社会を共につくっていかうとする児童を育てる。					
(2) ESDで育てたい資質・能力 ※本年度,特に重視する能力・態度は囲み字 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">能力及び態度</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ① 問題解決力，思考力・判断力 批判的思考力（クリティカルシンキング） ② 未来像を予測した計画力 ③ 多面的・総合的な思考力（システム思考力） ④ コミュニケーション能力 ⑤ 他者と協力する態度 ⑥ つながりを尊重する態度 ⑦ 進んで参加する態度 </td> <td> (1) 課題をもち，進んで探究する子ども (2) 互いに協力する子ども (3) 進んでコミュニケーションできる子ども (4) 学んだことを発信し，実践できる子ども </td> </tr> </tbody> </table>		能力及び態度		① 問題解決力 ，思考力・判断力 批判的思考力（クリティカルシンキング） ② 未来像を予測した計画力 ③ 多面的・総合的な思考力（システム思考力） ④ コミュニケーション能力 ⑤ 他者と協力する態度 ⑥ つながりを尊重する態度 ⑦ 進んで参加する態度	(1) 課題をもち，進んで探究する子ども (2) 互いに協力する子ども (3) 進んでコミュニケーションできる子ども (4) 学んだことを発信し，実践できる子ども
能力及び態度					
① 問題解決力 ，思考力・判断力 批判的思考力（クリティカルシンキング） ② 未来像を予測した計画力 ③ 多面的・総合的な思考力（システム思考力） ④ コミュニケーション能力 ⑤ 他者と協力する態度 ⑥ つながりを尊重する態度 ⑦ 進んで参加する態度	(1) 課題をもち，進んで探究する子ども (2) 互いに協力する子ども (3) 進んでコミュニケーションできる子ども (4) 学んだことを発信し，実践できる子ども				

(3) 本校ESDの特長

本校では，「共に生きていく社会」について考える学習をテーマとし，総合カリキュラム型で，地域（遺産）教育や環境教育，福祉教育，防災教育の実践を行っている。

震災では学区の17地区中7地区が被災し，平成23年度からは地域状況に応じて学習プログラムを開発・改善しながら学習を進めている。そのような状況であるからこそ，より強く深い「人」や「教材」とのつながりを求め，子供自身が主体となり「今の松岩と未来の松岩」を考える学習を創造していくことが重要であると考え，日々ESDの実践に取り組んでいる。

2 今年度のESDの概要

(1) 実践の概要

教育領域	単元名（学年）	学習内容	発信方法
地域教育	たのしさいっぱい三峰公園（1年） 聞いて聞かせてまちのすてき（2年） まだまだあるぞ松岩のすてき（3年） 探ろう松岩の歴史（4年）	・低学年では，松岩の自然や人に触れ地域の豊かさを学んだ。中学年は，地域遺産である煙雲館と松岩寺の見学を行い歴史に触れた。	観察カード壁新聞 新聞
環境教育	環境レンジャー出動（4年） 森と海のつながりを考えよう（5年） 海の恵みを知ろう（5年）	・4年生は，環境保全活動を実際に行ったり，自分達にできることを学校放送を通して全校に呼びかけたりした。5年生は，ホヤの解剖実験なども取り入れ，養殖業を中心とした海の恵みを学習した。	ポスター ワカメパッケージ作り
福祉教育	福祉の心を学ぼう（6年）	・6年生は，福祉施設や保育園，支援学校との交流を通し，共生について考えリーフレットにまとめた。	リーフレット
防災教育	「防災名人」に会いに行こう（3年） 災害に役立てよう（4年） 防災マップを作ろう（5年） 防災を考えよう（6年）	・「防災学習シート」を活用し，各学年体系立てた防災学習を行った。保護者と共にサバ飯体験や防災マップの作成をし，防災意識を高めた。	ポスター ポスターセッション リーフレット

(2) 本校ESDの課題の解決に向けて，今年度，特に工夫・改善したこと

◆本年度の課題◆

(1) 学習プログラムを精選および改善し，児童の学びがより探究的・主体的な学びとなるようにする。

- (2) 児童が多様・多角的な課題をもち追究し、自分の考えの発信をしたり行動の変容が見られたりするよう学習計画を作成する。

課題(1) 工夫・改善

- より体系的なプログラム構成に改善したり、教科や他領域との関連を図ったりすることで、児童が既存知を生かして主体的な学びが展開できるよう学習内容を工夫した。
- 5年生の学習プログラムについては、問題解決のプロセスを考え、学習計画を修正しながら実践し、より探究的なものに改善途中である。

課題(2) 工夫・改善

- 生活科を中心に児童の五感を刺激して知的感受性を高めたり、総合的な学習の時間の探究活動を通じて多面的思考力を育成したりできるよう体験学習の在り方を追究した。
- 児童の課題解決の方法として、コミュニケーションや人との関わりを大切にする課題解決方法を必要性に応じて取り入れた。
- 家庭、地域（公民館との連携）等に対して、児童の考えを発信する機会を確保する。また、保護者の意見を聞く機会を作り、それを取り入れて学習の深化・拡充を図った。

3 「ポストDESDとしてのGAPの推進」に向けての成果と課題

(1) ねらい・目的の視点から

① 成果

- ・少子高齢化の進む社会の中で地域と共に生きることは必須の課題である。「共生」を目的とし、全学年で地域の「もの・こと・人」と関わる学習を行うことを意識し活動したことで、児童は、地域のよさを再認識することができた。
- ・5年生の学習プログラムでは、例年以上に産業と環境の両面から海をテーマとした学習を行うことができ、ESDのねらいに即した学習を展開できた。

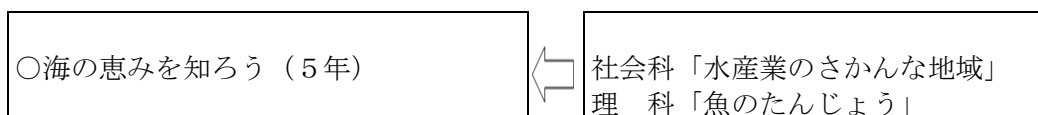
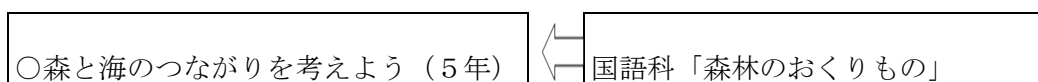
② 課題

- ・地域課題といえる「共生」の在り方について検討し、ねらいの具体化を行う。
- ・市内全体で行われているESD教育ではあるので概要についての把握はできているが、目的の更なる具現化のために、全校体制でESD学習が行えるよう校内研修等で話合いの機会を定期的に設けた。

(2) カリキュラム・マネジメントの視点から

① 成果

- ・「ESDカリキュラム検討会」を2月に行い、児童が興味関心をもち学習できるように、学習のつながりを重視し指導時期の入れ替えと内容の見直しをした。
- ・他教科との関連を考え、5学年での学習内容を充実させた。



② 課題

- ・教科書の改訂に伴い「教科」の学習内容を見直し、総合カリキュラムの学習に反映させ、ESDの学びの土台となる「知識」の充実を図る。

(3) アクティブ・ラーニングの視点から

① 成果

- ・児童の課題意識を高めるため、人材活用による講話、体験活動、見学、実験などを学習内容に

応じて取り入れた。

- ・選択制のコース別学習の機会を増やし、児童が主体的な思いをもち学習に取り組む工夫を行った。
- ・グループワークの時間を増やし、課題に向けて多様な考えを意見交換し、自分の意見の見直し及びより高次な課題をもたせる学びを行った。

② 課題

- ・児童の課題が多角的かつ多様なものとなるような「人・こと・もの」の一層の教材化を講じる。

(4) 評価の視点から

① 成果

- ・新聞、リーフレット、観察カードなどの記録から児童の考えの変容を理解した。

② 課題

- ・児童の行動の変容について評価するまでには至っていない。今後評価方法について具体化していく。

4 今後のESDの方向性～21世紀型能力の育成等～

- (1) 児童自身が課題意識をもつことができる学習展開を創造する。現行の学習プログラムは、活動内容が多く、探究型学習まで至りにくい。そこで、児童の課題に応じて活動内容を絞り、児童が協働的、主体的に思考する時間を充実させる。
- (2) 現在まで築いた地域との結びつきを一層強化する。本校は公民館との協働学習を学校が主体となり行うことができるという強みをもつ。今後も公民館との連携を図り、地域の人々とのつながりを広げていく。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（)